シェアの法則

七 劇団青年座

言わせて！今日の芝居

五十字劇評 No.62

【六〇代】

▼シェアハウスに住む面々は、国籍・年齢・職業が違う訳ありの人々。共通するのは、皆心の中に負の思いを持っていること。このような設定で描く物語はどう展開するかが難しいと思う。

この作品は、そこのところを丁寧に描いていた。一人一人の事情が明らかになる展開を、興味深く観ることができた。小さな希望が見える終わり方は良かった。人は人と繋がりを持つことで幸せになることができるということだと思う。春山秀夫役の山本龍二は、上手いのか下手なのかよくわからない「ぶっきらぼうな演技」が印象に残った。また、妻喜代子が最後まで登場しない設定も面白かった。

（男性）

▼シェアハウスに住む面々の人生模様。エピソードに無理を感じぬ訳ではなかったが、俳優たちの確かな演技にまずは安心して観ることができた。小粒なホームドラマもたまにはいいものだ。

（男性）

▼人生いろいろ。感情いろいろ。いろいろな人間がもがき生きる。芝居を観る客の心と重なる。優しい時間に感謝。

（女性）

▼うれしいことはもちろん、つらいこと、哀しいことをシェアできる仲間を大切にしたいと思った。これでラブロマンスがあると、もっと幸せな気分になれたのに。

（男性）

▼最後まで顔のなかった家主さんが全ての人を結びつけ導くかのような素敵な話でした。私に大きな家があっても、このような生き方が出来るかと思い、小さな家でも何か出来るだろうか？と考えてしまいました。

（女性）

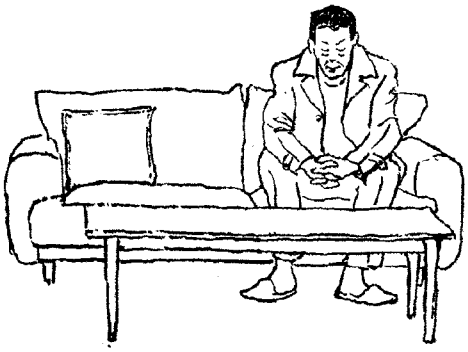
▼ひとりひとりの個性と境遇がわかりやすく、あぁいるだろうなこうゆう女性達と思いながら見ていくうちに、自分もシェアハウスに住んでいる感覚になり、終わった時ハッピーエンドで良かったと思ってしまいました。

（男性）

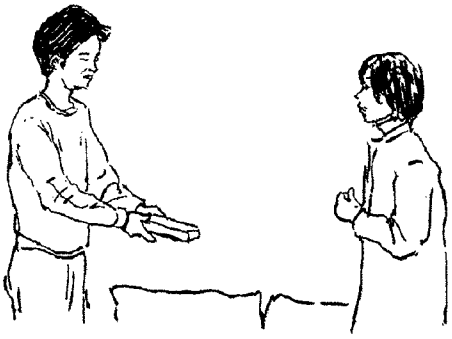
【七〇代】

▼シェアの法則って何？人は生まれながら自由・平等という事？それを維持するにはイヤでも話し合うしかない。とても面白かった。

（女性）



▼シェアハウスを舞台に、親子関係、金銭関係、外国人の就労問題等々、身近に見聞きする事が、笑いあり涙あり、どんでん返しありと楽しく拝見しました。全てとは言いませんが、本音を抑えたり隠して生きるより、正直に素直な気持ちで接した方が、家族であれ他人であれ良い関係が生じるのでは。最後、皆ハッピーで良かった。（女性）



▼トゥルペンハウス（チューリップの家）でチューリップの花言葉が「思いやり」なのでアットホームな感じは分かるが、シェアの法則ってどんなルールがあるのか楽しみに観ていたが、最後までそれらしきことは出てこず残念でした。「思いやり」だけが法則？（女性）

▼シェアハウスは、いろいろな人達がゴチャゴチャいっしょに生活している世の中の縮図でしょうか。こんな国になるといいな。

▼舞台には登場しない喜代子さんの人柄が想像出来るという人間同士のつながり、親子関係など、身近な問題を気付かせてもらった。（女性）

▼すべてが、つまった芝居。人は人との間で生き、そして変われる。地味だけど、考えさせられました。（女性）

【八〇代】

▼王晴のジョークは、ア、犬と同じ差別表現になる。中国の人は名前を大事にする。脚本から除外すべき。（男性）

編集スタッフから

劇評の編集をしていると、自分と違う視点・とらえ所にハッとさせられたり、共感することに度々出会う。役得かなと思う。自身としては、観劇後、興奮冷めやらぬうちに書くのが一番、と思っているがままならない。しかし、稚拙でも「鉄が熱いうち」に打てたときには、手前味噌だが面白いような気がする。今年一本目の例会、いかがでしたか？